

## 武道執行専門委員に出席して

一心無双流居合道剣心会 村上 亭

まずは理事の先生方の一方ならぬご苦勞に対し感謝申し上げます。武徳会というものが、四月の全国武徳祭と十月の平安神宮奉納演武大会の開催が、その主たる目的と理解しておりました。これは私の単なる認識不足で、参加する側から見ただけでしたが、昨年の十月と、この二月八日の委員会・社員総会に出席させて頂き、少ない理事の先生方で膨大な仕事をこなされているのを見ることが出来ました。内規の作成、高段者審査表の作成、青少年会員の育成等と東伏見総裁の逝去に対する対応等々。

一般社団法人大日本武徳会の設立と共に、その方向性を求められた武道執行専門委員会の設立共に、その方向性が求められた武道執行専門委員会の設立であったと思いますが、武道執行専門委員としての役割が、大会実行委員と準備委員、高段者審査委員会、審査委員講習会、大会検証委員講習会と定められました。色々な流派があり、他の流派を見るということは、刀の取り扱いが違うため、自分の目を鍛える必要性があります。全国武徳祭において各流派の演武を逐一細かく見る必要が有ると思います。高段者審査の審査委員の先生、大会検証委員の先生の負担は大変なものがあると思いますが、ここまでルールを引いて頂いた理事の先生方の努力に報いるためにも、武道執行専門委員は一致して一般社団法人大日本武徳会の繁栄に向かって頑張らなければなりません。

## 第四回武道執行専門委員会に出席して

日本武道空手協会 鍊士 齋木 泰徳

去る二月八日第四回武道執行専門委員会に出席させていただきました。

浜田鉄心先生の迫力、説得力ある進行、そして、諸先生方の熱心な議論に感服しております。正に、日本の伝統武道を発展させるべく中樞がここにあることを実感した次第でございます。

さて、先日 武道における「黒帯」を題材としたTV・CMが目にと飛び込んできました。そのCMは、武道の宣伝といったものでなく、例えとして「黒帯」が題材となっておりました。民間資格団体のCMだったのですが、(細かい詳細は略します)、日本国内資格と国際資格の差を表現するもので、武道の「黒帯」は、国内資格であるかのようなCMでした。これは、武道をきちんと認識している者であれば、あり得ないことです。「黒帯」は世界共通であり、国内資格ではありません。CM制作関係者の方たちは、武道をよく知らないからだと思いますが、これに限らず、日本人として武道に対する認識の低下だと危機感すら感じます。

